唐土訓蒙圖彙 二

唐土訓蒙圖彙巻之二

和名并 和訓附

地理

此部ハ萬國中華より諸州島嶼の名術とあらゆのまで乃あまねくしるし

此圖伏羲の仰て天文をかんがへ對て包羲氏俯して一定の法を地に觀察しかるがゆへに崇く深く北ハ高く南ハ低乃類と塞ありて察て易と作りてますなり

地球圖
山
川
北極界
大東洋
東大洋
亞墨利加
南亞墨利加
新拂郎察
得光得白
墨瓦蠟泥
空南
南極界

此輿地全圖ハ予壯年の時或人の家藏とうつして秘藏せる事年とあらり今幸にあてゝ寫とり西東を以て合縫されハ即一圓毬圖となれり今あらためて元本ノ形状とうつしとす毫釐もたがへずかく一凸一凹の隈一嶋一川の小といへどもあやまりなきをのこ只うらむらくハ紙幅狭少にして國名山川の記ことごとくあらはしゑざるのこゝろ人とがめることなかれといふ

中華十五省并東夷一統圖
野作
韃靼
女直
五国城
遼東
遼陽
廣寧
山海關
永平
順天
北京
大同
東勝
河套
開平
興和
沙漠
哈密
火州
土魯番
玉門関
山丹
西涼
永昌
寧夏
榆林
延安
慶陽
平凉
固原
臨洮
鞏昌
鳳翔
陝西
西安
華山
漢中
四川
成都
順慶
重慶
山西
太原
潞安
平陽
彰德
懷慶
河南
南陽
嵩山
襄陽
荊州
登州
萊州
青州
山東
濟南
兗州
泰山
東昌
河間
歸德
淮安
揚州
鳳陽
廬州
安慶
南京
應天
寧國
池州
徽州
常州
蘇州
松江
湖州
嘉興
浙江
杭州
嚴州
紹興
寧波
台州
溫州
處州
金華
廣信
撫州
江西
建昌
吉安
贛州
南安
南雄
福建
福州
建寧
延平
邵武
汀州
漳州
泉州
興化
潮州
廣東
廣州
肇慶
高州
雷州
廉州
瓊州
廣西
思明
太平
南寧
柳州
平樂
永州
衡州
長沙
常德
衡山
辰州
思南
鎮遠
都勻
貴州
貴陽
程番
曲靖
雲南
武定
楚雄
鎮沅
南安
昆明
臨安
沅江
大理
麗江
永寧
順寧
永昌
孟定
孟艮
緬甸
南甸
暹羅
安南
八百大甸
琉球
朝鮮
蝦夷
日本國
九州
昌國

唐土訓蒙圖彙巻三 三

朝鮮國之圖
北
南
城
開城府
長白山
平安道
黃海道
全羅道
忠淸道
慶尙道
江原道
咸鏡道
東北雄關
分水岺
竹山
錦江
洪州
仁州
温陽郡
百濟
新羅國
金山浦
濟州
耽羅國
江東府
常州
廣利府
甲山
咸興府
淮陽府
松岳郡
高城郡
平康縣
女直兀良哈界

蓬莱山

一名ハ蓬丘山一名ハ雲莱東海の中にあり高さ一千里地の方三千里上に金臺玉闕あり是神仙の都上帝遊息の所海水正黒にして風なくして波浪萬丈人の往来することなし唯飛仙間よく到る者あり昔禹王氷を治て輪車にのり弱水を渡て此山にいたるといへり

四塞の関中

関中は中故よりいへし明の陝西省西安府にして古への周秦漢晋唐いつれも此所に都をうつ長安咸陽なんといへるもこれらなり西嶽華山も西安府の内華陰県にあり周秦漢唐のミやこなれば終南山渭水驪山鴻門等の名山舊跡文武始皇漢人の陵墓等もこれあり

西山

大行山より聯亘て起伏数百里にして層巒此西湖と匯りもと山と甕山とに寺あり圓静寺と号す山の田をして九なる湖ありこれを功徳寺ありまた次に華厳寺あり三洞あり又行て香山碧雲寺あり玉泉漸く又ゆきて平坡寺あり左右境の名る或は一里或は十里二十里等の廻絶傑山の大観伺まりことの名の景そ知へし

三泖

呉の淞江のうちにし三泖ハ府城の西南三十六里にあり大史公が云泖の言ハ茂なりといふハさうんなるなし乱の跡撲武帝に三泖ハ冬も温に夏凉しくこころよき所也泖に上中下ある故に三泖といふ浦くそのうちに願會浦大盈浦黄橋門斜塘石湖秀洲塔などいふ所名地多し

洞庭君山

岳州府城の西一十八里にあり又湘山と名づく状ハ十二螺髻の如し昔尭の女湘君のすめる此にありて上に楚興寺軒轅臺柳毅井傳書臺亭飛昇亭山酒香山あり道書に第十一の福地とす

洞庭湖ハ雲夢湖青草湖ともつらなりて君山をめぐる故に君山を洞庭山といへるも宜なるかなしく述べし

赤壁山 武昌

府城の東南九十里にあり宋の元豊五年の秋七月十六日蘇東坡楊世昌といふ者と二人舟にのりてあそひにあそへり酒をのみてたのしむ世昌は洞簫をふきてその音いとあはれし蘇子これより曹操がこととの人世のうへとおもひつゝつゐに賦をつくれり文を前赤壁の賦といふ

九鯉湖 興化府

仙遊縣にあり九仙宮山の麓に一峯をなす石上に飛泉ありてそのほとり漢の時何氏といふ者兄弟九人ありて此泉を酌みて仙人となりおのおの鯉に乗して上昇す故に此を何嶺湖と仙山を何巖といふ湖水を仙水と縣を仙遊とし皆何氏の故を以てなり九仙宮これをまつる霊験多しといふ

滕王閣　隆興

府府城の西章江門城にあり此閣ハ唐の高祖の子元嬰此の都督たりし時此閣を建られ後滕王に封ぜらる故に此名あり又二亭あり南を壓江と北を挹秀といふ唐の時閻伯嶼都督となりて此閣を修復しその時の序を王勃十三歳にて作る名文なり今此圖ハ文によりて潤色

岳陽樓　岳州府

大岳山の陽にある故に岳陽といふ大樓ハ郡治の西南にして西面ハ洞庭を君山ならびし樓乃創始されしことをしらず唐の開元年中中書令張說出て此郡に守たりし時日ごとに才士と登覧して詩をつくられよりして樓の名あらはれ後に宋の滕宗諒つくりあらため范希文に記をつくらしめ蘇子美義是を書き邵竦その首に篆しると世に四絶と稱す

黄鶴楼 武昌

府城西にありむかし費登仙黄鶴に駕して此に憩ひ玉ふ故に遂に楼を名づく其構へ巍々として上ハ河漢より下ハ江流にのぞむ岳陽楼と此楼とハ一双のかれたるとまされ

○崔顥登楼詩ニ

昔人已乗黄鶴去
此地空餘黄鶴楼
黄鶴一去不復返
白雲千載空悠々
晴川歴々漢陽樹
春艸萋々鸚鵡洲
日暮郷関何處是

天台山 天台

山ハ天台縣の西一百二十里天台山に八重ありこれをとろとれハ一乃ごとし高さ一万八千丈周廻八百里高大の故を以て上天の三台星に應ずる故台嶽と称れはしむ寺院若干ありその外石橋ありて半天にかゝれる瀑布ハ深て雷声となる洞天桃源乃類多くあとくく記しし

泰山 東

山東濟南府泰安州にあり五嶽の東也一名天孫天帝の孫といふ心也魂をつかさどる王者命を受る時は必封禅す皆石に刻て功をしるすなり

衡山 南

荊州の山鎮は五岳の南也周旋数百里高四千一十丈東南は湘川にのぞむ湘川より長沙にいたる七百里九向九背し禹王登りこれをまつる

華山 西

豫州の山鎮五岳の西なり頂に池あり千葉の蓮なるを生れあれを服すれば羽化すとて華山といふその名勝旧蹟もつとも多し

恒山 北

山西大同府五岳の北なり恒は常にして常山のたかさ三千九百丈七尺周廻三千里大玄の泉神艸十九種あれと徹して世と度べし

嵩山 中岳
河南府登封縣にあり中岳なり大にして高き故に山名あり又この山東を大室といひ西を少室といふ大室より十七里嵩高を総名なり二山名石室あるゆへにかくいへり
雪堂
蘇子瞻元豊三年二月に黄州に謫されし時馬正卿より舊田屋と與へられし雪中に造作せられし故に四壁に雪を畫きて雪堂となづく
羅浮山
増城博羅二縣にあり蓬は海上よりうかびきたる高さ三千六百丈峰巒四百三十二寺楼泉水石巌洞池のかず ことぐくあげがたし
鹿門山
襄陽城の外にあり
沔水襄抱て昔漢の隠士の居しところ
龐徳公ここに隠れ唐の孟浩然も居せり
夜帰鹿門歌あり思ひあはすべし

峨眉山

嘉定州峨眉縣にあり峨眉に三山大峨中峨小峨とし大峨其高さはかるべからず佛書に見えたる普賢大士示現の所なりとぞ

養龍坑

長官司両山の間にありそのなかの水源は雲地にあり下にかくる乃時雲霧晦冥蛟涎にて地にありて馬と接りて必ず龍駒を産む漢武四年に九尺長丈餘の馬をえたりとぞ

五湖

呉郡の西南にありその廣さ三萬六千頃中に山七拾二ありて三呉を襟帯とす一名具區一名笠澤一名五湖と名づくまた大湖といへり

大庾嶺

南安府城西南九十五里にあり山高く嶮へくり初ハ山頂の路峻阻なく通ざりしを唐の張九齢石壁を開鑿し新路となせり嶺上に梅多し故ハ梅嶺ともいへり故名とすともいへり

石頭城
呉ハ人石頭に據て城とす故にいふ諸葛亮か石頭虎踞といひしは是なり石頭西山嶺の下大江に臨めりあり洞天あり是も亦洞天とす

桃源洞
常徳府桃源縣桃源山桃源洞あり一名ハ秦人洞洞の北に桃花溪あり晋の太元年中武陵の人秦を避る人にあひし所なり

爛柯山
一名ハ石室下に石橋あり道書に此山を青霞第八の洞天とすむかし王質此山に入て童子乃奕を見て斧の柯乃爛るを不知里

京口三山
北固山ハ京口城の北にあり下長江にのぞむ金山ハ揚子江の心にありそれ第一の山とす焦山ハ京口城の東北にあり江中に峙て三の山皆鎮京之

雲間九峯

所謂雲間ハむかし晋の陸雲か雲間陸士龍の語あるよりまて名づく九峯ハ秀たる峯九つあれハなりとぞ

首陽山

蒲州の南にあり伯夷叔斉か隠れし処也祠の前に二柏樹あり根ハ相距れとも上ハ交りて其形相揖するか如し二賢をまつる処といふ祠の前の白鹿の塑像あり二賢薇を含ひ兼て鹿乳をのむ故なりといふ

岐山

鳳翔府城の東北六十里にあり鶴鳴山と聯なり岐山三峯秀て於丘の上に峙ること十里ばかりなり五代の時僧楚熙こゝに居せり

廬山

南康郡にありその麓三百余里たり彭蠡と距り江漢を阻て東ハ豫章の境界と接る崇峰峻嶺飛泉絶壑良田その外しるべし

唐土訓蒙圖彙巻之三

名の下に和名を附

宮室 みや

易に曰上古穴居而野處後世聖人易之以宮室 室此部より上天子の宮より下民間の村居まで ことごとくのせくはしくしるし

宮 みや
合宮ハ黄帝のはじめて造る所 宮ハ中なりとく都の中に處するむねをいふなり

殿 との
前殿ハ秦の始皇帝のはじめてつくる所也 殿とハ軍の殿のごとし 衆の屋とかはる義なりといふなり

閣

阿閣ハ黄帝の作る所 白鳳阿閣に巣くふといへり 閣ハ樓乃うへに今一重かけるものなり

臺（うてな）

臺ハ黄帝乃こしらへつくるところにして高くして四方を観めぐらしとほくみるとハ謝といふ

堂

明堂ハ黄帝の作る所なり 明の字乃心ハ礼義を管るところを明にする意なり

觀

黄帝元始観をつくりたまふ 観ハのぞミみるの意なり 又架楼ともいふ

幹樓

方士漢の武帝に謂て曰 黄帝の時より五城十二楼を為て神人を候と 武帝これを信じて幹楼をつくりたまへり

闕

門闕とて まくやぐらと云 左右に門をひらくをとりて中乃かけたる意なり

亭
舘
客
齋
堵
庭
舘
堂下
宅
廨
庖

関塞
関は出るを察し入るを禁
非常をまもるところなり塞は隔
すなわち遠境の辺のまもるといふし
○塞ノ和訓コレヲセキトヨムナリ

廟 たまや
廟ハ貌の字義にて先
人の霊貌を彷彿とする故なり
むかし黄帝天子のかくれ給ひて臣下
追慕して祠を立る其はじめとし
學 がくもん
郡学校なり上天子
より下庶人にいたるまで つとむる
所の学文所なり
皐門應門
むかし大王岐にうつりて室を築き廟をつくり
皐门應门を建つ古公亶父のち大王と追称し王の郭
门を皐门といふ正门を應門といふ後天子の門なり

辟雍

天子の射を学ひれを行ふの所に水をめぐらして四方かこひしくるりと観るやうに擁きさし

泮宮

泮の義は半の字と通して天子乃文れをうへしこれ諸侯の学舎なり

田廬

民の耕するに生する鶏犬を畜ふを時なり五畝の宅二畝半を廬として二畝半を田とし古制なり

守舎

田園をまもる小屋にて番する人すまひ田をみまもるところにてかくものあり

牛室

牛をかふところ横をきさらす室也

倉

五穀をおさむる處の総名を倉といふなり

廩 くら 廪
なくやねなうり わらとりよめれ 廩倉ハ五穀を蔵る所の惣名なりとも いへり

庫 くら 兵器
金帛ぶとをおさむるといふ 書をいるゝを文庫といふ 湯武のときに五庫を築て 兵器とおさむ

廥 くら 碓
なくやねなきくらといふ いゆりよれた ぞったり

囷 くら 稟く
建て苫さゝ みくらとゆふ 廩の圓なり と囷ふん

京 くら 旗
ちゝとらふ又 原の字よつる 京ハ高大乃 義をゆふく いへり

竇 あな くら
小ふして腹大 あしてあへ石 と穿て出入 するといへり 窖に似たり

廏 とう 牛
豕の類をかふ ところといふ

登司 登
登司ハ林の名 麓登とひと つなり今乃 人おやまうで との名なん

郭　くわく
城のそとを郭
といふ
縣といふ大城を
衛り民をま
もれる縣を城
城には君あり
郭には民あり
○傾城
城　しろ
城ハ盛なり
國都と
睥睨し
孔の中
より非常を
睥睨するを
女牆といふ卑
しき女子の丈
夫におよばざる
ごとしといふな
り

夫子宮壇前後圖

先聖孔子の廟ハ兗州仙源卿の西二里にあり魯城に接すること二百歩闕里の舊宅なり殿門の結搆ハことく記し委しく垂ハ聖跡圖闕里志等にあらはれ
そのまハ界のさと

前　壇

後壇

廟 おたまや

これ天子先祖を祀まつる所なり

皇城圖
大學校
大學校 學文所なり